

街に余白を与える集会所

機能を持たない余白を街に与える事で、人が集まるための余地を持たせ多様な活動に対応できる集会所を提案します。

現在の集会所は、利用時間の制限や、内外の分断による空間の制限により、自然に集うためのたまり場としては不十分だと考えます。

そのため閉鎖的であったかつての集会所にない「余白」を設けて地域に開放することで、緩やかに人々の生活や地域と統合し、自然な集まりのきっかけを与える集会所を提案します。



地域の象徴となる大きな屋根と余白



機能を限定しない自由な余白



利用者数の変化に順応性を持つ集会所



団地から集会所の活動が見える

■テーマ1「みんなが自然に集い、顔を合わせ、語り合う、集会所づくり」について

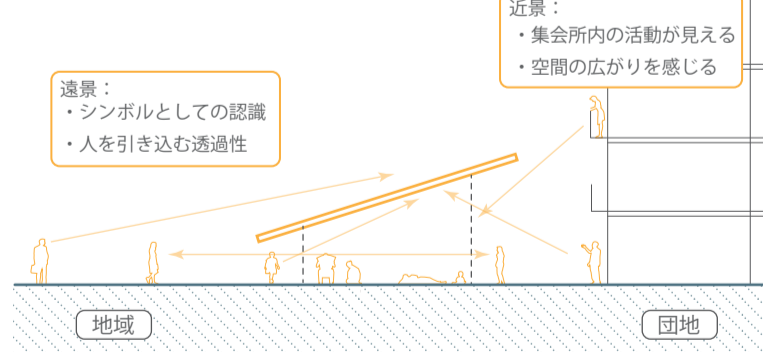
□風景に呼応するヴォリューム

敷地は、山と海に囲まれた地形に位置し、団地と中学校などの大きなボリュームと、住宅街などの小さなヴォリュームで街が形成されています。既存の街並みを尊重し、建築面積は35坪程度の中間のヴォリュームとすることで、共生と調和による環境形成に寄与する集会所を計画します。



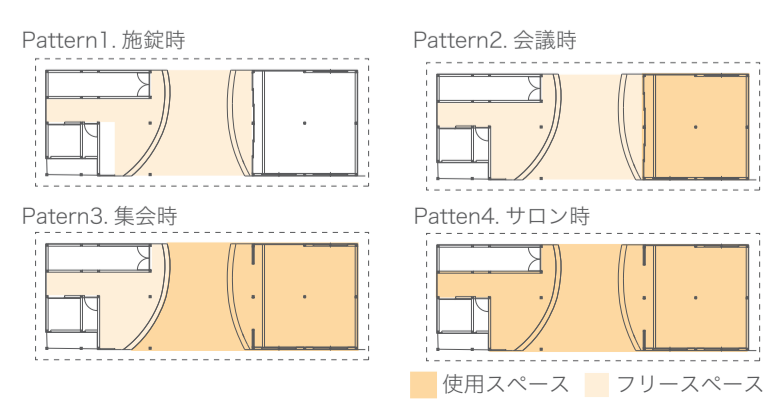
□地域のシンボルとなる外観

前面道路に向かって傾いた屋根は、住宅街側からは大屋根として認識され、人々を誘い込みます。また、屋根が開かれた団地側からは、集会所内での人々の活動が垣間見え、集会所を利用するきっかけを作ります。



□フレキシブルに機能する余白空間

大きな余白空間は街と団地をゆるやかに繋ぎ、地域の活動に順応しながら様々な用途として機能します。また、集会時には連続している余白と集会室が一堂のような役割を果たすため、利用者の要望で部屋の大きさを選択できる可変性のある計画にします。



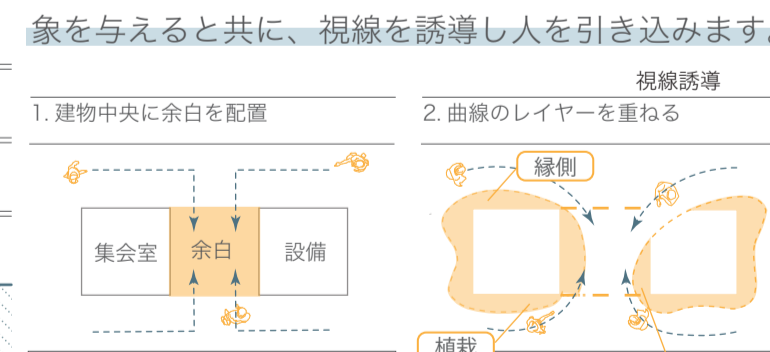
□周辺地域を活かした集会所

団地の西側には中学校があり、前面道路は通学路などの地域住民の主要動線として利用されています。前面道路から団地に地域住民を受け入れる余白を与えることで、人を集会所に引き込み、住民の溜まり場として地域の主要な場となる集会所を計画します。



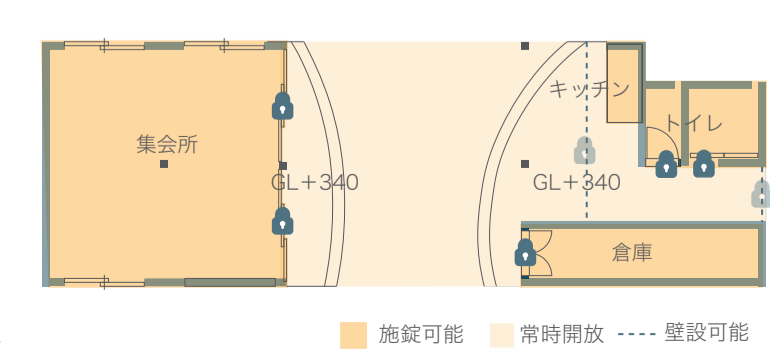
□人を引き込む配置計画

建物の中央に街と団地を接続する大きな余白を設けることで、集会所を開く時間のみ開錠して利用することができます。開くと閉じるのバランスのとれた計画によって、管理面と衛生面に配慮した集会所を設計します。また、二箇所に壁を設けることで管理を容易にすることも可能です。



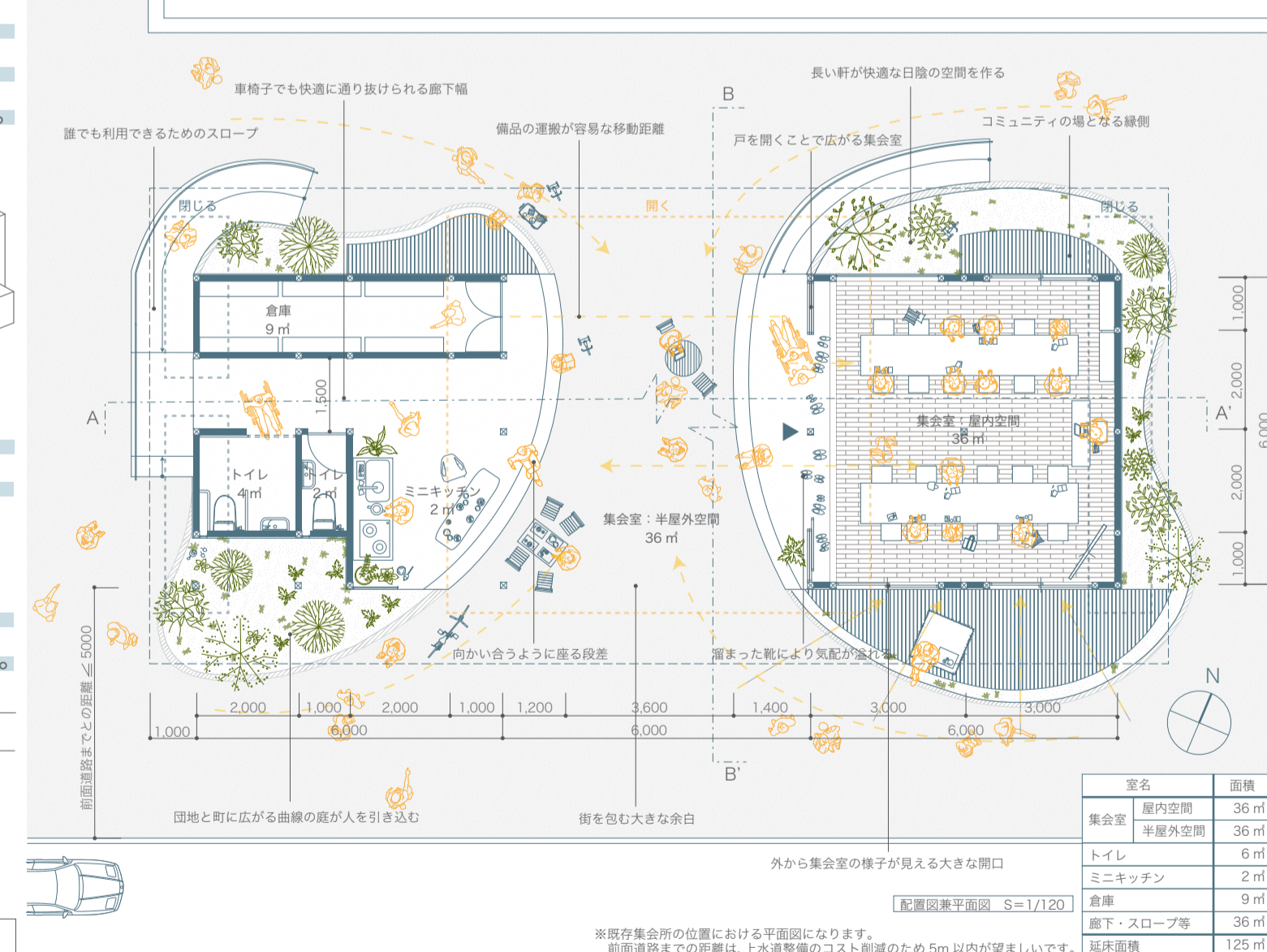
□安心して利用できる集会所

トイレや倉庫、ミニキッチンはGLから二段上に配置し、集会室を開く時間のみ開錠して利用することができます。開くと閉じるのバランスのとれた計画によって、管理面と衛生面に配慮した集会所を設計します。また、二箇所に壁を設けることで管理を容易にすることも可能です。



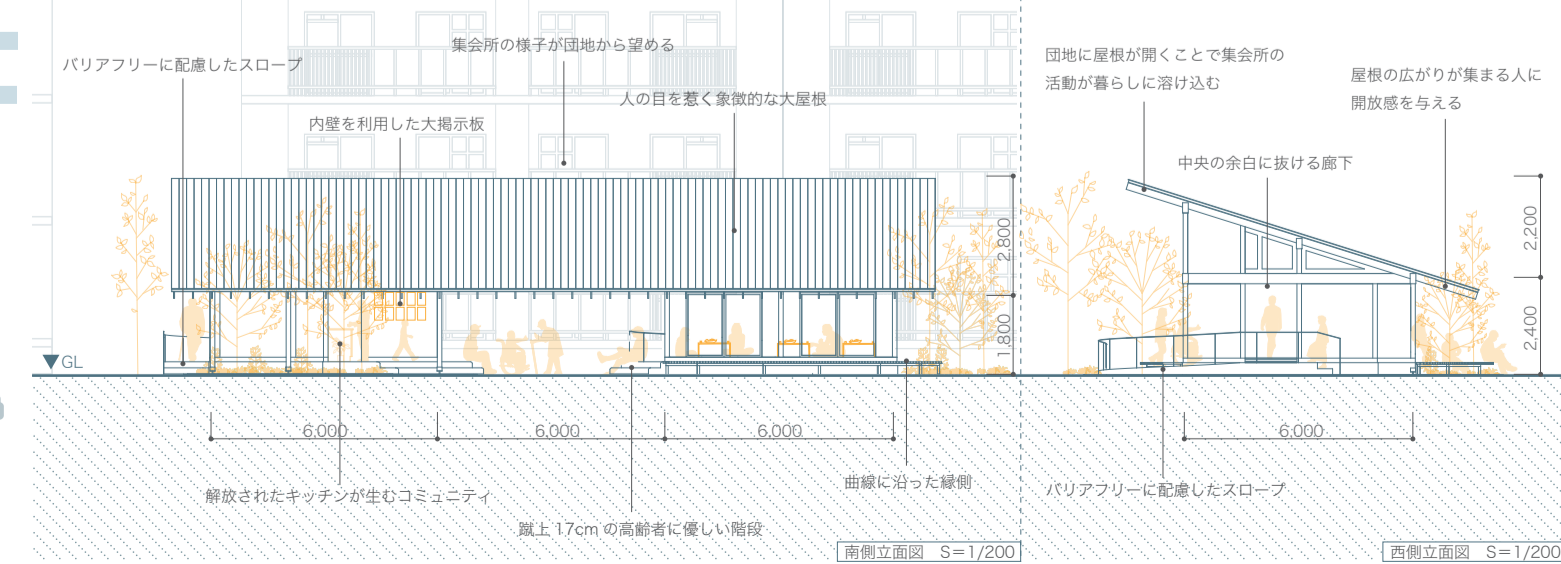
□「開く」と「閉じる」のバランスのある平面計画

機能を持たない余白を設けることで集会所の利用方法の幅を広くすることができます。また、従来の集会所にはない透過性を持たせ、活動の見える化を促進させます。



□立面的な「余白」のある地域に向けた集会所

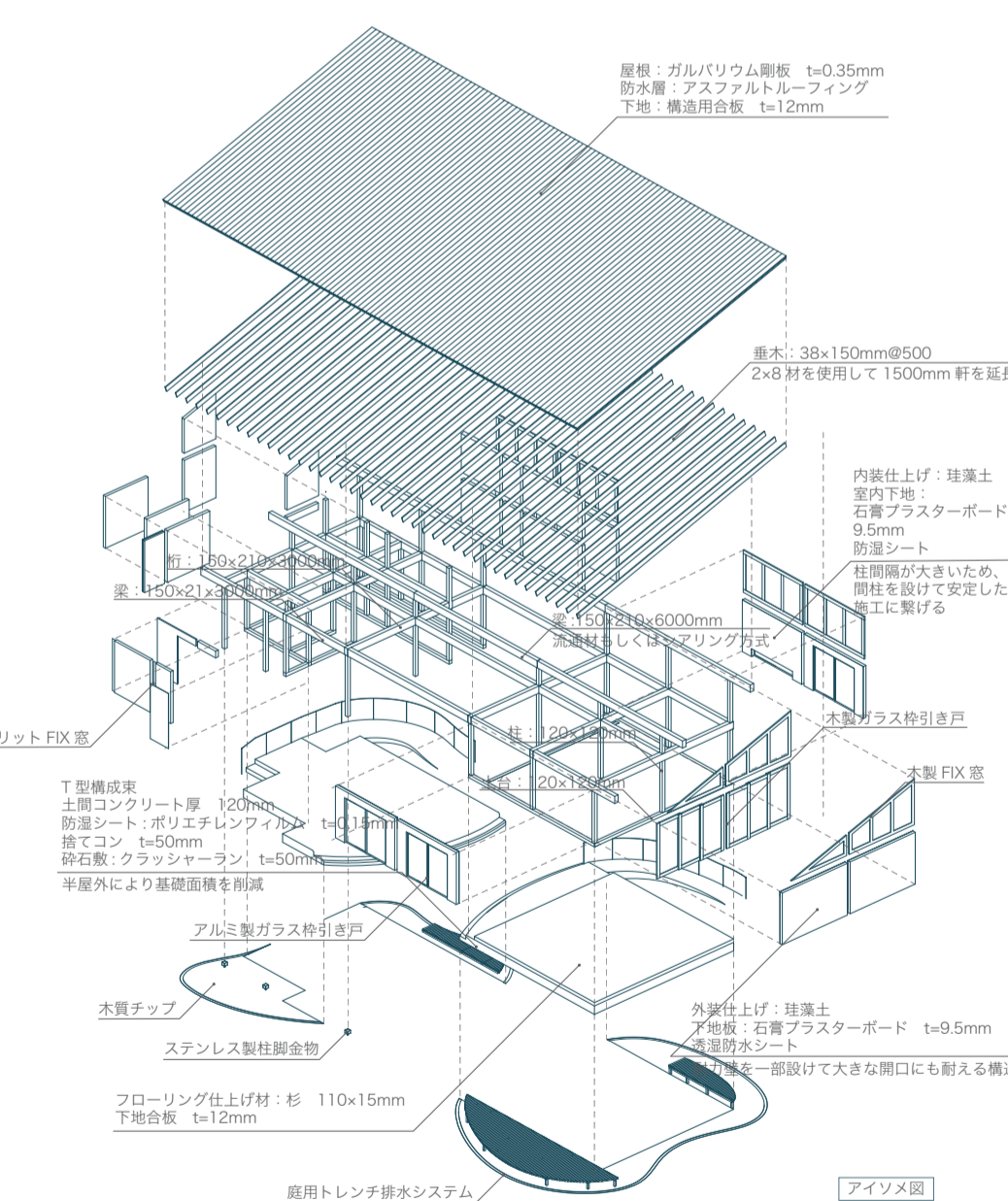
躯体の中央に設計した余白はアイレベルで南北を繋ぎ、地域コミュニティの創生を活性化します。屋内の集会室も開口を大きく取ることで、無自覚に活動を地域に発信することができます。



■テーマ2「機能的な集会所づくり」について

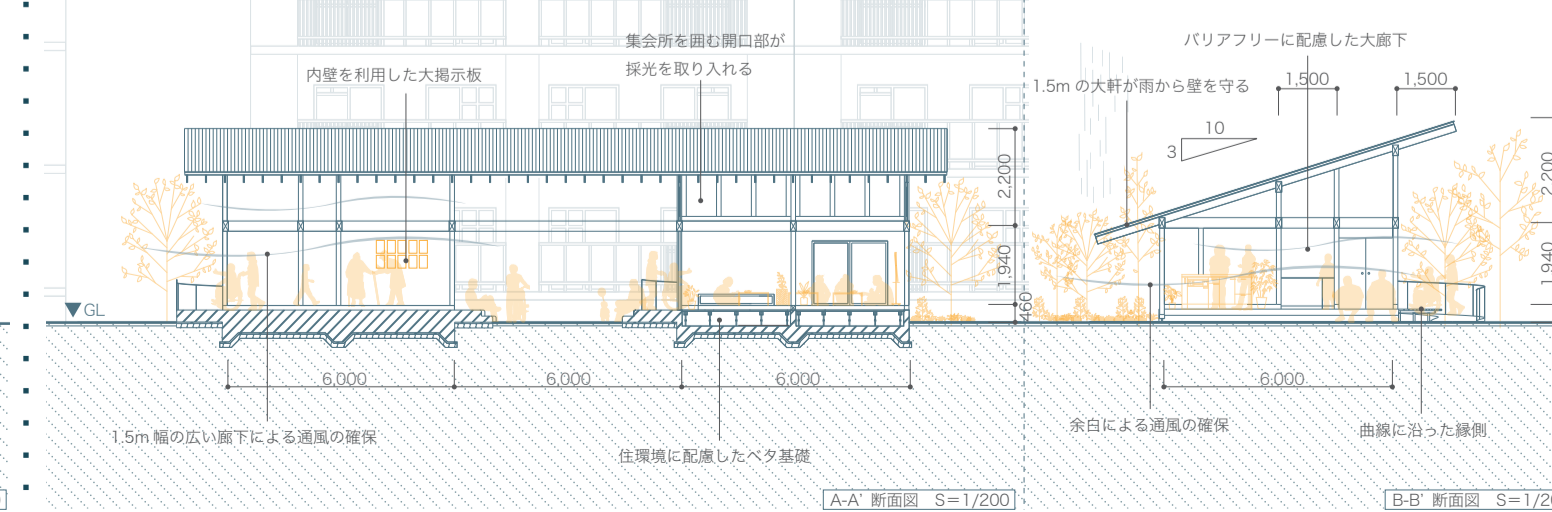
□効率的な維持管理に配慮した構造計画

従来の在来工法で設計を行い、その骨組を現すことで、現代の建物には見られないような厳かな重厚感を感じさせます。建築の骨格は、3mのモジュールが連続する単純な架構で構成されています。東側のグリッド(6x6m)を室内とし、西側のグリッドを屋外としました。東側のグリッドは、田の字型の柱配置によりさらに幾つかの領域に分解され、人の集い方のパターンを増やします。また、一室の集会室として利用するときは、連続し配置された垂木により、その連続性から一体感を感じることが出来ます。余白空間からの反射光や小屋組の上部から盛れる光の陰影が、日々の集会所の活動の中に彩りをもたらします。



□福山の穏やかな環境を取り込む断面計画

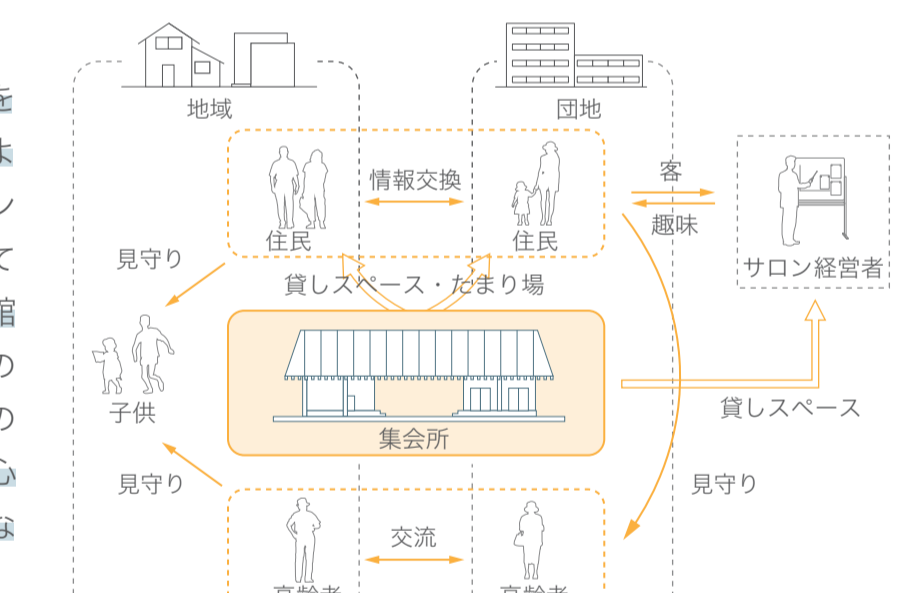
人を引き込むための大空間の余白や集会所を外から見える化するための開口部、バリアフリーに配慮した幅広い動線は福山の穏やかな気候を取り入れる窓の役割を担い集会所内に空気の循環を促します。また、木造建築とすることで施工時の炭素排出を抑え脱炭素化への配慮をします。



■テーマ3「集会所の建替における取り組み」について

□公民館的利用を促進する集会所

地域に開かれた集会所は団地の住民が集会所を行う目的だけでなく、日常的に人々が集うようになります。地域住民も参加可能なサロン活動を行うことで、集会所に集う人が増えていき地域コミュニティ創成の場として公民館的利用が進んでいきます。集会所に集う人の姿が街に見えることで、地域コミュニティの可視化が行われ、地域の子供や高齢者が安心して暮らせるような街の助け合い意識につながります。



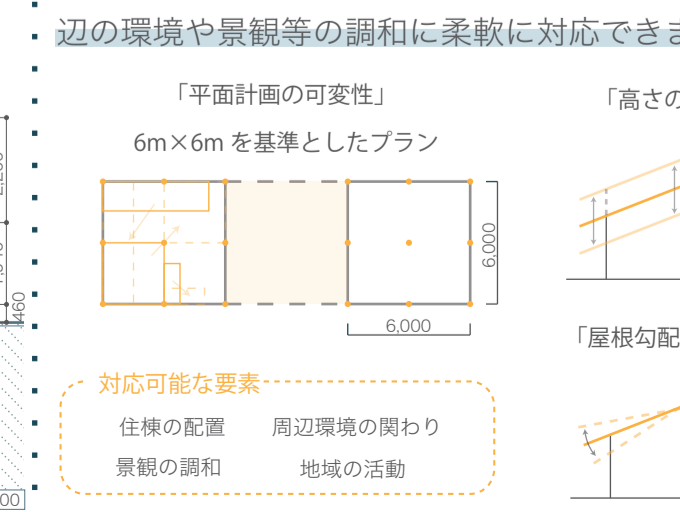
□地域住民とつくる集会所

計画から施工、運営のそれぞれの段階で、集会所に愛着を持ってもらうためのワークショップを企画します。地域活動の拠点となる集会所を計画段階から地域住民の方々と一緒に考えつくることで、小さくても暮らしの拠り所となる場所をつくりだします。



□余白によるプランの柔軟性

「余白の空間」、「6m×6mを基準としたプラン」の単純な要素で構成された建築は設計段階でのプランの変更が可能です。そのため、住棟の配置による周辺の環境や景観等の調和に柔軟に対応できます。



□研究室一体となって取り組む設計体制

大学の研究室で本設計に関する発表の機会を定期的に設け、学生と共有することで幅広い意見を取り入れ、実施設計にあらゆる角度から取り組みます。また、学生の協力を仰ぎ、効率的な作業を実現し、事業者や地域住民との円滑なコミュニケーションが可能な体制をつくります。



□コストコントロールが可能な計画

規格材を用いた在来工法で、設計費を抑え、変更可能な素材もあるため、予算に応じた変更が可能です。給水・排水設備が必要な室をまとめることで、配管の必要長さを短くし、配管工事の規模をおさえます。工事費は、前面道路から5m離れた位置に計画した場合で計算を行いました。

名称	金額(万円)
基礎工事	61-68
木工事	878-976
屋根工事	187-208
その他	552-613
電気設備費	104-116
機械設備工事費	199-221
共通費	245-272
工事費合計	2,226-2,474

正事費: 2,226-2,474万円(±2,500万円) ※により施工可能